

## 平成31年3月2日開催「住民から長崎大学への質問会」議事録

主催 上野町東部自治会・本原町自治会

場所 上野町東部自治会公民館

(敬称略)

司会 今日は雨も降ってしまいまして、足元の悪い中お集まりいただき、ありがとうございます。私は本日の「質問会」の司会をさせて頂く、上野町東部自治会の総務の[REDACTED]と申します。よろしくお願ひします。

前回10月27日に開催されました平野山里地区での「質問会」がありましたが、その中でいろんな質問や意見が出されまして、その意見等を参考にしながら総合的に判断して頂くということで調先生からも回答がありまして、その後1月28日に施設（建設）が着工されたということで、その中の今回の「質問会」ということになっています。

今回も大学の方から先生方をお呼びしまして、いろんなお話を聞いて頂くのですが、めったにない機会ですので、普段皆さまが思っていらっしゃる疑問だとか質問等何でも洗いざらいお話しいただければと思っています。

不慣れな司会ですが、最後までご協力をよろしくお願ひします。

今日前にいらっしゃる方々は大学の方から来て頂いております。

自治会の方から、まず上野町東部自治会長で反自連会長でもある[REDACTED]さんと本原町自治会長の[REDACTED]さんです。

大学の方からは感染症共同研究拠点の4名の先生方、調副拠点長、安田準備室長、中嶋さん、嶋野さんにお越し頂いております。こちらの先生方に答えて頂くことになっていますので、よろしくお願ひいたします。

まず、会長より挨拶をお願いします。

[REDACTED]会長 皆様こんばんは！ 土曜日夕刻の貴重な時間に、たくさんの方にお集まり頂きまして誠にありがとうございます。本日は現在建設が進められています長崎大学坂本キャンパスのBSL-4動物実験施設について、住民の疑問や意見、不安な気持ちを大学に伝えようと、昨年の平和山里の「質問会」に引き続いで、大学の関係者をお呼びしての「質問会」を当上野町東部自治会と本原町自治会の共催で開催致します。大学の先生方も仕事上とはいえ、四面楚歌の中、出席頂き誠にありがとうございます。

当上野町東部自治会は4年前の平成27年、長崎大学からの建設賛同の要請を受け、その年の年次総会でアンケートによる会員の意識調査を実施することに

なりました。大学から頂いた説明文を添付した無記名アンケートで、建設賛成約10%、どちらとも言えない（よくわからない）約20%、建設反対約70%という結果を受け、役員会の中で当自治会としては、建設反対表明をすることで決定しました。

本原町自治会をはじめ周辺の合計11自治会もアンケートを実施、同じように反対多数で、反対表明自治会数26自治会となり、その中の近隣自治会で「BSL-4施設の坂本キャンパス設置に反対する地元自治会連絡会」を結成して、大学に対し住宅地への施設の建設は避けるよう、訴えてまいりました。

反対署名数も18,000筆を超えたが、大学は住民の声を無視し、今年になって施設建設をスタートしました。

大学は今まで何度も各地区で説明を重ねてきて、住民の理解も深まったと言っていますが、昨年の平野山里町自治会の第2回目のアンケートでも、5年前の第1回目と殆ど変わっておりません。

理解が深まっていないじゃないかということで、みなさんにこういう状況を説明して頂いてですね、もっと皆さんに理解を深めて頂いて、どうすればいいのかというのをまだどんどん心を割って、審議して頂ければと思っています。

こういう状況の中で、大学は地域連絡協議会で、施設建設に住民の合意は必要ないと発言されたとも聞いていますが、やはり住民の身体・精神を左右するようなこの危険な施設については、それなりの社会的責任を負わなければならぬと思います。

やはり住民との話し合いを進めていって、合意の下で造るなり、移設するなりして欲しいと思います。

本日は皆さんの意見や希望を大学に伝え、大学の説明もよく聞いて、今一度この問題を考える機会にして頂ければと思います。

皆様の忌憚のない質問や意見をよろしくお願ひします。

司会 ありがとうございました。次に大学の方から調先生、一言ご挨拶をお願いします。

大学(調) 皆様こんばんは。今日はこのようなチャンスを頂きありがとうございます。これまで何回か平野町に加えて、山里の上野町東部に説明会をお願いしてきましたが、なかなかうまくチャンスを頂けなくて、この形は初めてですが、直接皆さんとお話しできる機会を頂きまして、大変ありがたいと思っています。今、話が出ておりましたけど直接ご意見を頂ければと思いつますので、よろしくお願ひいたします。

ただ、先程の████会長の一言だけ、地域連絡協議会の中で合意はいらないと発言がありました。私どもはそういう言い方はしていなく、合意が前提であるとは

思っていません。合意を得る努力をしながら、説明をしながら進めて行きたいと思っています。このように言ったという事であり、それをどう捉えているか皆さんの気持ち次第だと思います。

一応お手元に資料を用意してございますので、ご質問があれば該当するページを申し上げてから説明をしたいと思っております。  
あとはざくばらん意見交換にしたいと思います。

司会 ありがとうございました。時間ももったいないので、皆様の発言に入りたいと思います。発言される場合皆様に三つほどお願ひがあります。まず発言される前に挙手をお願いします。出来ましたらどこどこの誰ですと言つていただき、マイクを渡しますので、到着まで時間があるかもしれません、待つていただき、もちろん発言されるまでタイミング的に時間がなければそれで構いませんが、出来るだけ大きな声で発言ください。今回は全編録音をしておりますので、後で議事録に起こしたいと思います。発言の際、マスコミの方も何社かおられます、写真撮影がダメな方はそうお伝えください。マスコミの方はそこで撮影を止めて下さるようご協力をお願いします。それと、携帯やスマホの音が鳴らないようもう一度確認ください。  
それでは質疑応答に入れます。早速の挙手をお願いします。

住民 こんばんは、先生方雨の中、ご苦労様です。当自治会の1区の××です。10月27日の質問会の記事を読みましたが、2~3質問があります。大学ではこういう住民の意見に対してどういう調整をしているのか？研究施設設置ありきで、意見交換はガス抜きではないのか？との思いがあります。田上市長は施設設置に関するアンケートや市民との合意と理解を得る作業は大学が行うべきと、大学に投げてしまっている。大学は説明会の中で誠実に説明責任を果たしていると言っているが、その中で地域住民の反応あるいは意見をどう考えているのか？国策としての設置であるなら、国や県や市とのすり合わせ、意見調整はどうしているのか？

大学(調) こういう質問会も含めて、これまで何十回となくやっておりますが、決してガス抜きというようなことを考えている訳ではありませんが、出された質問に関してその場で答え、答えが足りない分については、持ち帰って検討することを繰り返してこれまでやってきたと考えています。

アンケートに関して市長さんは大学がやるべきと言ったと言っていますが、市の方は自分たちはそのような立場でないと言っており、大学としても紙を撒いて賛否を問うことは考えてなく、いろんなやり方で、意見をくみ上げる方法を今現在も検討しております。国策としての県と市と大学のことに関しては、ご質問の趣旨がよく分からなかったので、もう一度お願ひします。

住民 これは国が持つて来て、長崎が受けた形なのか？

大学(調) 違います。

住民 この辺の流れが見えないのでう一度説明してください。当然これは国の方針として長崎大学が受けた感じでしょうが、その辺がよく見えない。

大学(調) もともとは日本にこういう施設がない現状の中で、内閣府が全国の各大学からこの領域の研究者を10名程度だと思いますけれども、各大学から集めて、この施設が日本に必要だと思うけれども、どうかということと造るとすればどこがいいかということをその委員会に投げた。その委員会の中で、全国の研究者が議論をした結果、長崎に造ろうと言う結論が出た。長崎大学がこれを受け長崎大学として準備を開始したという流れです。  
もともとは国が必要だから日本の学術の全体の中で、どこかにできないかと言ったのは国です。だから、長崎に作れと国が言った訳ではありません。

大学(安田) 正確に申し上げますと、内閣府の委員会の中で、日本国内にBSL-4施設が必要という結論が出て、そのあと同じいろいろな大学とか研究所の人間、その会議に関わっていた中で、それではどこに造りますかというところで、いくつかの大学が動き始めたが、最終的に長崎大学は手を挙げて、現実的なところで長崎大学がやりますということで、他の大学や研究所の方々からご支持を頂いたという流れになります。

住民 手を挙げて、支持を仰いだとすれば、当然地域住民に問い合わせた反応を、国に伝えないといかんでしょう。こういう風に地域住民は反対しています。

大学(安田) その段階では、長崎大学がこういった設置計画を進めますという前学長の片峰学長が表明されたのが2010年5月で、内閣府の委員会からの話は2006～2008年そのあと学長ワーキングということで専門家の先生を集めて、どういう立地・場所とかどういう造りのものがいいかというのを、意見を伺ったりして始まり、その時点ではまだ設置計画を進めたい段階で、その設置計画を進める中で地域の皆さんとの説明も始めたという事で、2010年から地域の方々への説明も開始したことになります。

住民 江平2丁目の××と言います。これを作るのは世界の安全と命を守ることですね！ 崇高な目的です。しかし自治会の皆さんいのちも大切です。サンデー毎日によると、施設は70～80億の建設費及びその後の管理、そういう問題でこれは長崎大学の生き残りの要だということもそれが正しいかどうか、お聞きしたい。

2016年11月菅官房長官に田上市長が呼ばれ、それから県知事と長崎大学が国の

後押しがあるからと動き出した。筑波や武藏村山もBSL-4実験が出来る施設を造ったが、使用されていません。その唯一の理由は住民の反対があるからというのが主な理由です。

説明を何回しても、あまり反対の数はそのままだと。だから説明すれば説明するほど、理解すれば理解するほど、反対の意見が根強いし、なかなかおらない。だから先程どなたかがガス抜きじゃないのか、僕もそう言う感じがします。都合がよいところだけ説明するという。

大学(安田) 配付させて頂きました資料の9と番号がついているところをご覧頂ければと思います。これまでの長崎大学のBSL-4設置計画の経緯ということを記してございます。

2010年5月に前学長がメッセージとしてBSL-4施設設置の検討開始を公表し、その後こういう流れでいろいろ地域の皆様とのお話し・説明を続けていました。それまでは国策という言葉は一切出てきていない。

ご承知の通りでございます。

2016年11月関係閣僚会議で長崎大学のBSL-4設置計画を国策として進めるということで、長崎大学のBSL-4設置を国策という位置付けにして、予算等の検討が始まったという流れであります。

大学(調) 長崎大学の生き残りのために造るということですが、もともと長崎大学は感染症研究が大学の大きな柱になっており、そういう意味では、そこにBSL-4ができるという事については、大学として大変重荷を負うと共に、研究機能として向上することを期待しているところです。ただ大学の生き残り要因のためにこの施設を長崎にしたとは考えてございませんし、そこまで言われると、いやそんなつもりで造っているのではないと言いたくなるのですけれども。

大学(安田) 筑波、武藏村山は1980~81年、当時武藏村山は厚労省の国立感染症研究所の村山官舎の中に作られ、筑波は理化学研究所の管轄の中で造られております。武藏村山は出来た後に住民の方々の反対運動があって、BSL-4施設としての稼働は至っていないというのはご理解されている通りです。

筑波は遺伝子組み換えのためのBSL-4施設として造られましたが、住民の反対はあったものの、あまり需要が無くて稼働していない。

武藏村山の方は2015年8月塩崎厚労大臣と村山市長との間で協定が結ばれ、患者等の検査に関しては稼働させることについて合意がなされたと理解しております。

それぞれの施設に関してはそういう状況でしたので、我々も設置計画を開始した時点から住民の皆様との話し合い、説明を開始しなければいけないと認識しております、それで2015年以降、住民の皆様への説明それから意見交換等を開始させて頂いたところです。

反対の数があまり変わらないのではないかというご意見ですけれども、2010年の12月からこの説明会等、色々関わっておりますが、私の感覚としては、ずいぶん理解が深まったと考えております。

大学(中嶋) 筑波はもともと遺伝子の組み換えというのをBSL-4の病原体レベルまでということで計画されて造られたものです。それに対して、住民の方の反対というものがあって、裁判がありました。水戸の高等裁判所までその裁判がいったが、理研側、被告の方が全面的な勝訴ということで、裁判は理研が勝った。その後、理研と名館村のところで協定書というのができて、病原体としてはBSL-2プラスのところまで扱うというのが結ばれ、実験は筑波の方でされたがそれ以来使われなくなって、相当な年月が経ってしまっているという施設です。

武藏村山は建物が出来た当初は、市の方も日本で初めての研究施設と広報誌などで公表したが、やはり筑波の問題で市長が稼働を止めてくれというような話になった。

その後ずっとBSL-4としては使わずに、その他の例えはHIVとかウエストナイル熱とかそういった病原体をずっと使い続けながら、2015年にまで至ったというところです。

その後エボラ出血熱の世界的、特に西アフリカでの流行で国としても協議を始める中で、患者が日本で出た場合に必要な検査や診断をしたり、そのための準備をするというところに特化してやってくれないかという最終的に大臣の方と市長さんの方で話ができる、市としてもそこは容認をする、せざるを得ないというか、そういったところで、話がまとまり、今日に至っている。

住民 政府が9つの大学を集めて、その中で手を挙げたのが長崎大学ですよね！

大学(安田) 政府から持ち掛けられたのではなく研究者というか研究所や大学の集まりの中で、この施設の必要性というのは先程の内閣府の委員会というか会議の中で必要だろうとなった。

住民 その時点で長崎市、長崎市民にこういうふうな形をしたいけども、どうですかねというような声をすぐ出しましたか。

大学(安田) 2010年5月に前学長がこういう施設を作りたいと考えていますと表明。その後説明会等を行っておりまます。

住民 あちこちで50人程度集めて説明会をしたというが、長崎市民は何十万人もいる。その方々には何もしていない。事故があれば長崎の経済はマヒし、市民は隔離

される。 西の果てだからやりやすい。自衛隊が来て交通もストップさせる。 私たちは大学の近所に住んでおり毎日毎日心配してゆかねばならぬ、ストレスで人間は病気になったりもする。 大学は考えたことがありますか？

大学(調) 私も近くに 60 年程住んでおります。 基本的に施設からウイルスが漏れるとということはないということを、追求しながら、現在施設を造り、ルールを作り、制度を作っているところでありまして、基本的には、どういうことが起こり得るのかという可能性を一つ一つ丹念に上げながら、可能性を潰して、そういうことが無いようにというルール作り、あるいは施設造りをやっていくところです。 基本的には、ウイルスが外に漏れるということはないというように我々は考えておりましすし、先進国中心に 50 数か所ありますけれども、ウイルスが漏れたという例についてはないということになっております。

今、考えている可能性としては、研究者や作業者が作業中にあるいは研究中に、例えばネズミから採血をしたりした時の注射針を自分に刺してしまうとか、そういう可能性については世界的にも数例報告がありまして、そういう可能性については、我々は否定しておりませんが、だからそういう事について、どのように対処すれば安全に運営ができるのかというようなことを、延々に検討しているところでして、建物から通常の状況でウイルスが出るということについてはあり得ないというように断言しても、よろしいじゃないかと考えておりますので、その内容については、細々具体的な事例を挙げながら、これまでも説明して参りましたし、質問も受けながら、検討を重ねているというところです。

住民 大学のホームページにはウイルスは漏れると書いてある。

大学(調) 書いてないと思うのですけれど、どこにどう書いてあるのか、ご指摘頂ければと思います。

住民 研究者の事故とか、持ち出し、テロ、盗難、実験動物や小さな虫の逃走など可能性はある。 空気は漏れないと言われても心配でたまらない。

大学(安田) この施設から例えば排気を介して病原体が漏れるとか、排水・廃液を介して外に漏れるという可能性は、私は現実には無いと断言できます。 それはなぜかと言いますと、この先程、ご覧頂いた資料のまず 21 からご覧頂けばと思うのですが、BSL-4 施設という施設の中で扱う病原体はウイルスという病原体です。 病原体には、ウイルスとか細菌とか寄生虫とかございますが、今のところ、今のところというか BSL-4 施設で扱いなさいと決まっているのが全てウイルスという病原体となります。

ウイルスという病原体は、自分で動くことはできません。 ただのタンパク質とか核酸の小さい粒子だと思って頂いてよろしいかと思います。

ちょっと前に流行したインフルエンザウイルスなどもそのウイルスの一つでございます。では、ウイルスというのがどういう特徴を持っているのかというのを 21 番のところに記載してございますが、これは運動器官をもたないので、勝手に飛んで行ったり勝手に動いたりすることができないようなものです。勝手に増えたりもしません。ウイルスというのは生きた細胞の中でしか増えることはできないので、簡単に言えば動物やあるいは人に感染しない限りは増えることはないです。そういったものです。

通常ウイルスは、私自身、熱帯医学研究所でこのウイルスを研究している者ですが、我々研究するときに保管、当然ウイルスを研究に使うためには保管して、その都度、溶かして使うけれどウイルスというのは非常に不安定なものです。乾燥にも弱いし、ちょっとした酸性とかアルカリ性に溶液が傾いてしまうとそれだけで壊れてしまうようなものです。長期間ウイルスを保管するためにマイナス 80℃とかいう極低温の冷凍庫の中で保管しないと壊れてしまうようなものです。

太陽の紫外線とか、水道水の中にはカルキとともに入っていますが、そういったものでも壊れてしまう、熱でも壊れてしまう、乾燥でも壊れてしまうというものです。

それから BSL-4 施設で扱われるべきと分類されているウイルスは、これは空気感染しないです。その端的な例としましては 24 をご覧頂ければと思います。一枚めくって頂いて裏にあります。ウイルスが動物とか人に感染するときにはいくつかの入ってくる入口があって、それによって感染様式と言いますけれども、感染の仕方が分けられています。BSL-4 に分類されているウイルスは接触感染というのと一番下に書いてある節足動物媒介性感染というこの 2 つです。

皆さんよくご存知のように 2014 年、2016 年に西アフリカでエボラ出血熱というのが流行しましたが、例えばエボラ出血熱あるいは西アフリカで流行しているラッサ熱というのが病原体、どちらもエボラウイルスとラッサウイルスですが、これは接触感染でしか感染しないという代物です。接触感染というのは、直接患者さんとか感染した動物の血液とか体液に直接触れて、こういった傷口とか粘膜から感染するようなものを接触感染というように言います。

一番下に書いてある節足動物媒介性感染というのは、主に蚊だったりハエだったりマダニだったりということですが、BSL-4 の病原体のこの赤字で書いてあるクリミアコンゴ出血熱は、BSL-4 の病原体ですけども、これはマダニが媒介するものです。少し前から日本でも、マダニが媒介するウイルス感染症として SFTS 重症熱性血小板減少症候群というのがあります、これも非常にクリミアコンゴ出血熱とよく似た症状を示して同じようにマダニが媒介するものです。

マダニに噛まれない限りは感染しないようなものです。

その下に24に実際これ西アフリカでエボラ出血熱が大流行した時の国境なき医師団の治療センターの写真ですが、ビニールのオレンジ色のフェンスを隔てて、国境なき医師団の方が感染した女の子を抱っこされていて、その2~3m挟んで左側にいるのが、この子のお母さんです。

実際現地でも、この距離を保てば感染しない。要は、空気感染はしないので、この距離を保てば、感染しませんよ。ということで、これはお母さんがお菓子か何かを差し入れに女の子に持ってきてているという写真です。

ですので、BSL-4の病原体というのは空気感染しないというものですので、例えば、この後中嶋部門長からなぜ排氣から病原体から出ないか、排液に感染する物質が出ないかという説明をしますので、そもそも、まかり間違っても、まかり間違ってもないですが、出たとしても空気感染しないということで、施設の周りにいる動物とか人に感染するリスクというのは無いということを申し上げたいです。

それから、そもそも施設の中で扱うウイルスの量は非常に微量です。

数mlとかこんな量ですので、それが全量を本当に意図的に散布したとしても、施設の外までその病原体をエアロゾルと言いますけれど、微粒子・微水滴のまま外に出るような可能性は無いということで、私冒頭で申し上げたように施設の外に病原体が出る可能性はないと申し上げます。

住民 排気、排熱は特殊な処理するとも言われたが、今の説明では何もしなくても施設の外に病原体が出る可能性はないということですね！

大学(安田) いや、よいとは申し上げていません。安全策ですので、安全には安全を重ねて安全を確保する。というのがこの施設の大原則です。現実的には無いけれどもさらに安全のために、こういった排気、排液のシステムを取りますというのは当然のことだと思いますが、できるだけそういうリスクをゼロに近づけるということで我々やっております。

先程も、その点について申し上げたつもりですが、現実的なリスクとしては無いと申し上げることができます。

ただ、そうはいっても、よくこういう説明会をしても、言われるのが、そうは言っても何が起こるかわからないでしょう、我々も現実的に起きないですよと言っても、皆さまに安心して頂くのも重要なと思います。

そういう意味では、より何重もの安全策を取るというのが我々の安全対策の基本原則になっております。

住民 ××と申します。この施設に関して、坂本の敷地内はいろんな条件が整って

いるから作ると言われましたが、何でよそに設置を検討しなかったのか？  
したのなら、他にどういう所を物色したのか？  
住宅地に立地を決める場合、何処まで検討されたのか。 急ぐ必要はないので、  
他の候補地を探すべき。

ドイツの視察は議員のほかに4人行ったと聞きましたが、■さん、■さんと  
他に誰が行ったのか？ ■さんと■さんは上野西部自治会の人だが、自治会  
では一言も言わない。

視察は個人が安心するだけの視察だったのか？ 公費で行ったのでしょうか、  
報告の義務があるのではないか？

■議員は報告会で一方的な話であったが、A4の用紙に書かれたものも配った  
が、殆どの市民は知らない。 国でやることだったら、市民、県民にも関係ある  
ことだし、何故周知しないのか？

立地が何で敷地内になったのかとの疑問と、行かれた方の報告がないが、  
それってありかな？です。

大学(安田) はい。ありがとうございます。色々とご意見頂きまして。

まず、もうその話はいいよと言われるかもしれません、他の方々にも説明  
させて頂きたいので、先程の配布資料の8番をご覧いただければと思います。  
先程、質問頂いた方がなぜ坂本キャンパスなのかと、整っているからだと大学は  
説明しているというのですが、我々坂本キャンパスにこの施設を設置する根拠  
としまして、大きく分けてこの3つがございます。

これをまた改めて私から読むようなことはしませんけれども、こういった理由で  
坂本キャンパスという事を決めました。 候補地につきましては、私ちょっと  
一通りしゃべった後に隣の嶋野教授からどういう候補地でどういう理由でと  
いう事を補足してもらおうと思いますが、その二番目のところでドイツのお話  
ですけれども、2017年2月 私どもが定期的に開催しております地域連絡協議会、  
こちらの自治会長の方とか公募委員で■さんとかご参加頂いている会です  
けれども、この会で、海外の施設を一度ご覧頂いた方が、百聞は一見に如かずと  
言いますので、どういう施設かとあるいはそちらの施設の人とお話を頂ければと、  
案内を差し上げまして、それで参加して頂いたのが、こちらに載っております  
■さん、■さん以外にあと二名は、平和町の■会長、それから山里の■  
連合自治会長の4名になります。 これに大学の職員が一緒に随行したという  
ことでございます。

その後。2018年に私もドイツ・スウェーデンの方は、一緒に行かせて頂きました  
が、こちらに主に長崎市議の方々と一緒に参りました。 その時に我々としても  
行かれた方のお話をどこかで皆さんにして頂いた方がいいじゃないかという  
ことで、この新聞広告等を出したという経緯がございます。

ただ、最初にドイツに行かれた方々は特に議員の方でもありませんし、なかなか大学からこう言ったからこういうところで喋ってくださいというのもなかなかそういう事にならなくて、我々としてはこの広告を出させていたというところでございます

住民 新聞に出たから分かった。その後、他の人は何もないのかなどの疑問が生まれた。■さんは地域連絡会にPTA会長として参加しているが、PTAの合意は得ていない。PTAの方々は知らないという人が多い。大学で確認されたのか？

大学(調) 住民の方は、地域連絡協議会の委員の方々でご希望の方で行きましょうと  
いう形で手を挙げられた人だけが行ったというになっております。

■さんはPTA会長ということですが、具体的に彼がPTAの中でどういう立ち位置に居たかは、我々は存じませんが、私たちもPTAの役員会のようなところに行つて説明はして、いろいろ意見交換をしたことはございますので、総会でどうなどは言ってはいないが、少なくともPTA役員のところでは、そういうことになっています。

それからもう一つ、議員たちですけども、これは大学っていうことではありませんで、議員さんの方から外国の施設がどうなっているのかあるいは反対運動があるのかないのかいうあたりをぜひ自分の目で見たいというご意見を2～3人からいただいたので、そういうことであれば、議会の事務局の方で取りまとめていただければ、アレンジはしますということでやりました。

これはご本人たちの名誉のためにも申し上げますが、彼らの政務調査費で行かれたものでありますので、公務として行かれたものです。

我々も政務調査費を使って行ったので、議会のホームページとかに載せたらいいのにとお話をしたのですが、議会のルールで議会事務局が引率していないことについては、載せないルールがあると言われまして、そういう形となうことになります。この時も行かれたのは、基本的には長崎大学医学部キャンパスに近いところを地盤としておられる方々に行ってほしいという要望を出したのと、賛成の方も反対の方も全然構いませんということを議会に2つ申し上げて行きました。

その時に行ったのは、■さんと■さんの名前と顔がでていますが、そのほかには■さんと■さんと■さん、あと2人方、■さんなど7～8名で行かれたということになります。

大学(嶋野) 先ほど安田が説明した8ページのところ、お手元にお配りしている資料の8ページのところです。①、②、③と3種類書いてございまして、①と③をご覧いただくと、これじゃ坂本ってあなた達が決めていたじゃないのかという気持ちをお持ちになるのもそうかなって正直思っておりますが、実は、我々に

とって重視した要素の一つとして、②番というのがあります。

みなさまから今日こういう風にいろいろとご心配だとか、あなた達は大丈夫かといろいろご指摘をいただきて至極ご最もだとしており、私共は設置をする以上は、安全に運営ができる場所でなければいけないという観点で議論をしております。

具体的に申し上げますと、長崎市内、長崎大学のキャンパス、施設に関わらず長崎市内全域について、あの辺ならいいじゃないのかというような非常にプライベートなご提案、別に何か組織で決定されたということではなくて、俺はあの辺がいいじゃないのかと思うけどなどというプライベートな私的なご提案を幾つかいただいたことがあって、そういうところを見てまいりました。

例えば、周辺の地形は安全かとか、道路アクセスがきちんと確保されているのか、そういう観点から見てまいりまして、残念ながらここなら大丈夫だろうという確信を持てる場所が見当たりませんでした。

さらに、自治体の方で作っておられる防災マップというのがあって、ご覧になられた方がいらっしゃるかもしれません、長崎市内全域でどの辺だったら土砂災害が起こりやすいかとか、地滑りが起こりやすいかとか、地図に色付きで表示をされているマップがございまして、このマップも活用しながら長崎市内全域を確認したところ、やはり②番に書かれているような地形、それから天候の影響、大学本部、警察署、消防署など重要施設との連絡線、つまり道路のことですが、そういうものが安定的に維持できるというような確信を我々が持てる場所が、残念ながら坂本キャンパス以外には見出せなかつたということでございます。

ですから、お答えになっているかどうかわかりませんが、一番わたくしどもとしては長崎市内全域ではできる範囲でチェックをいたしまして、坂本キャンパス以外には確信が持てなかつたということです。

ちなみにこれは平成28年夏頃、7月頃、地域連絡協議会で議論させていただいて、その時の資料を一応今日念のために20~30部コピーを持ってきているので、その中で長崎市作成の防災マップも入れてございますので、ご希望の方には後ほどお配りをさせてもらいます。

もちろん、ホームページでも見ていただけますので、パソコンの方が便利という方はそちらで見ていていただきたいと思いますが、ペーパーでほしいという方には何十部か持ってきてるので、後ほどお配りをさせていただきます。大変恐縮ですが、私からの補足は以上でございます。

住民 坂本を選んだのは、大学の都合の良い勝手な言い分で、大学は住民の事は全く考えていない。ここに住んでいる住民をどう考えているのか？  
アクセスが便利とか、下水道が良いとか自分たちの都合の良いことばっかりで

住民の気持ちは考えてない、住民を愚弄している。

地域連絡協議会でも同じ、連合自治会長は中立であるべきだが、一人は中立であとの二人は賛成派、自治会はたくさんある。

そういう人たちの意見は無視してアンケート調査もしていない。

多くの自治会は反対多い。賛成の自治会長に、アンケート調査をして下さいと言ったら、反対が大いに決まっていると言う。

先程、安田さんが理解は深まっているといったが何処をどう見ていったのか疑問。大学としてもアンケート調査をやらない理由ははっきりしている。

住民 私も地域連絡協議会たくさん出席した。正直なところ当初から疑問が多い。まずスタートのやり方がまずかった。我々も大学の立場を軽視する訳ではないが、ここに住んでいる。大学側でここに住んでいるのは調さんだけで他の人は長崎出身でない。大体考えていることは分かる。他人事でしかない。設置場所の件、以前私が質問した時、嶋野さんは一か所だけ、神の島だけは固有名詞で説明、その他は名前を出すと、プライバシーいろいろな問題で出せないと言うが、でもそれはまずいのではないか？

坂本に決まったのはいつか？地域連絡協議会に連合自治会長が呼ばれているのは、彼らが賛成したからではないのか？坂本に作るためではないのか？反対の声を押さえつけるためではないのか？大学は敷居が高い。百何十年住民と共生してきたが、今回は共生ではなく強制、聞く耳を持たない。上から目線がある。嶋野さん、神の島はいいですから、他のところは何で言わないんですか？言ってもいいのではないですか？

大学(嶋野) いやいや、すみません。それこそ、いままたここで叱りを受けるのですけど、私たちの敷地についてだったら言えるのですけど、他の方のところのものですから。すみません、それは前にも地域連絡協議会でも申し上げたのですが、ある意味その地域の悪口になりますので、それを申し上げるのは適切じゃないだろうと思います。

大学(調) 当時、有識者会議で長崎大学の坂本キャンパスが適当だという結論が出まして、いま嶋野さんが言ったのは、その後にもう一回検討していく、有識者会議の議論の時には、私はそのチームに入っていなくて、あの時は時々見に行くぐらいの立場だったのでよく存じ上げてないのですが、その後にもう一回検討した結果が、いま嶋野さんが言った結果になります。それで神ノ島の名前が出たというのは、神ノ島工業団地ですので、当時、県と市と大学で作る会議のなかで候補地を10か所程度検討したと思いますが、地名は出すなということその場でどちらからも言われましたので、言ってないということになります。

大学の都合とおっしゃいましたが、電気のキャパシティ、それから下水のキャパシティ、水道のキャパシティ、道路の幅、それから水防、消防、警察とのアクセス、そういうことについてこと細かに下水管の直径から水の供給のキャパシティまで全部調べあげて、基本的には大学だろうということ、それから先ほど防災マップですね。という結論に当時なったということでございまして、要するに隠しているわけではないけども、そういうことだったので、言っていないということになります。

住民 長崎大学は BSL-4 病を造っている。坂本が適地というのは勝手だが、住民は病気になっている。中には転居した人もいる。本当は仲良くしたいが、長崎大学はダメだという意識を植え付けてしまっている。今日配った福島の資料、日本原電の元理事の北村俊郎さんは賛成派として住民説明会で事故の確率は1万年に1回、もし起きたらと聞かれると、あくまで確率論で、絶対大丈夫とごまかした。事故後は全く信用出来なくなって、反対の立場で新聞投稿などを続けた。人にはいろんな立場があるが、私は、長崎大学の説明を聞いても納得できず、信用できない。

住民 平野山里の××です。場所について、地域連絡協議会で早い時期に坂本以外に検討しているところはありますかと質問した。その時には嶋野さんが、きちんと調べたものを提出するという約束をした。地名とともに具体的に記載すると。その後、検討したが大学の方で上層部と話をして、地名は出さない方が良いとの結論になりましたとの返事でした。理由はその地域の方に対して失礼になると。最初約束した時はその地域の人にも納得されるお答えをするつもりと思いましたが隠すことではないと思う。

大学(調) 嶋野さんに後から補足してもらえばよいですが、上層部に聞いたということはありません。私たちの判断ですけれども、これは先ほど申し上げましたとおり、県・市との協議の中で出すべきではないという意見を両方から言われたので、出さないという結論になったということである。これを学長に挙げたりとかはしておりません。

大学(嶋野) 私の記憶に間違いない限りは、初めてそのご質問をいただいた時に、後日お出しします。その場で後日お出ししますという即答をした記憶もありません。それは念のため後ほど地域連絡協議会の議事要旨を確認してみますが、私の記憶違いの可能性もゼロではないので。

住民 地域連絡協議会が終わって、個人的に出しますとの1対1の約束でしたので、議事録には載っていません。

住民 山里中央自治会の××です。私も地域連絡協議会にずっと出ています。

嶋野さんがきっちと出しますと言ったことは、間違いない。私も横で聞いていましたので、間違ないです。

住民 ⑧で説明したが、自分たちのそばにこういうものは作るなど WHO の提言があります。離島や人里離れた場所に作りなさいと勧告してあります。日本学術会議にも、住民の合意のもとにやりなさいということですが、もう現実に作っている。  
住民の合意は何処にあるのか？

大学（調）（WHO の提言は）ありません。

大学（安田）まず、WHO の件ですが、先ほど調から申し上げたのですが、そういう文言はないです。ただ、誤解されているのがあります。これはある種、武藏村山の BSL-4 に関する反対の立場の方々が、訳した言葉が独り歩きしてしまっているが、WHO に書かれているのは、これは WHO といっても WHO が本当に出しているわけではなく、実際に編集というか書かれている方は大学の先生ですが、一応 WHO の安全指針マニュアルというところに書かれているのは、こういった検査室、ラボラトリーという言葉を使っていますが、一般的にラボラトリーとは検査室とか実験室ということですが、それは人の往来のない少ないところにということで、大前提として、その項目の見出しとしてはそういった医療施設とか研究所における、そういったハイコンテンメンラボラトリーについての話であって、往来っていうのは、例え病院の中のそういった BSL-3 とか BSL-4 のハイコンテンメンラボラトリー、要は高度封じ込め施設、病原体を漏らさないような造りの実験室、検査室に関しては、人はあまり来ない、往来のないところに設置するべきだというのが書かれているのを、そこだけ、そこだけ出して、ラボラトリー、イクオール、研究所という理解を勝手につくって、ただ前段から読んでいけば、それが BSL 施設のことではなくて、その病院とか研究室、医療施設、検査室、検査研究所の中の実験室・検査室の話ということがわかるのですが、そこだけ抜き出していることによってそういう誤解が生じています。

それに関しては、我々は WHO の担当の方にもメールで問い合わせています。WHO の担当の方からはそういう意味ではないという風にきちんと回答をいただいております。それは、地域連絡協議会だったかどうか記憶が定かではありませんが、公の場にもそういう風に出しております。

住民 そのような回答があったのなら、書類をもらえないか？ 言葉だけでは信用できない。なぜ大学は住宅密集地にもってくるのか？ 国策なら金は出るはず。大学は自分たちの都合よいことだけ並べて大学病院が近くで便利とかインフラが良いとかばかりで、住民のことは全く考えてない。  
住民の事を考えると人の住んでないへき地や離島に作るべき。

大学(調) 実はですね、今先進国にある BSL-4 殆ど全て住宅街の真ん中になります。

だいたい 100m 以内に。世界的な常識としては、そういうことになっているということです。例えば、離島。長崎は離島が多いですから、よく言われるのですが。感染症とのたたかいということで言えば、時間とのたたかいになります。今日は天気が悪いからアクセスができないという所では研究はできない。そういう意味で、離島という意味では我々は、考えておりません。

住民 ヘリでも何でもある。

大学(調) ヘリについては、船より更に欠航率がかなり高いので使えないと思います。

住民 私たちは一生ここに住む。あなたたちは同じ立場でない。  
親、兄弟、親族一同も住んでみてください。

大学(調) 大学は、医学部と病院の間に官舎がありますが、空いたら直ぐに安田さんを住ませてくれと言ってはいるのですが、空いてないですね。

それで、彼は単身で来ているので、あそこは家族用の官舎で、なかなか難しくはあるのですが、あそこに誰か住んでもらおうとは思っています。あとは、浜口あたりには、結構関係の人が住んでおりますので、あそこで研究をする人や作業をする人達は、あの地区を避けて住んでいるということはございません。

住民 自分たちの家族、子供、奥さん、そこまでの話をしているのではない。  
孫やひ孫やもっと先のことも、考えなくてはならない。

大学(調) 単身赴任をしているのに、そのために子供を連れてこいとはなかなか難しいですが、私は少なくとも、母も孫も一緒に住んでいますので。

住民 本原自治会の××です。先生方はよその人、我々はずっとここに住むわけ。長崎の浦上地区にこういう施設が出来たらどうなると思いますか？風評被害と言う言葉がありますが、土地とか家とか値打ちが下がってしまう。我々、子供、孫、子孫代々住む限り土地も安くなり、売れなくなる。このような被害に対して責任は誰がとるのか？

大学(嶋野) 今の地価の件について、一言だけ申し上げますと、従来からそういうご指摘を頂くことは少なからずありましたので、私どもも年に2回、国とか県がやっている地価の動向をモニターしております、山里と高尾と坂本の3連合自治会の中の調査地点について、モニターしております。今日はその地価のデータをこの中に収めていますので、必要であれば後で、また後日お渡ししたいと思いますが今のところ、事実の問題としては、地価の下落傾向は現れていませんので、一言申しあげたいと思います。

会場 未だ稼働していない！

大学(調) さっきのモニターについては、村山の方も私どもしておりますが、いわゆる大臣指定がありました。これまで BSL-4 としての稼働実績もないし、厚労大臣もこの施設で、そういうウイルスを入れていいですよという許可もなかったという中で、大臣指定の前後のモニターもしておりますが、全く地価には影響がないということでございます。

もちろん、まだウイルスは入っておりませんが、現状我々が調査できる範囲では、影響はないということですし、海外でも話を聞くだけですが、この前のストックホルムのスウェーデンの研究所に行った時も、市の担当者がお見えになって、いろいろ議員さん達と意見交換をしておりましたけれども、そういうことは全くないということでございました。

会場 言葉で言われても信用できない！ 調査資料を出してください。

大学(調) 海外の地価をつぶさにお聞きするということについては、かなり困難もありますし、不動産屋から聞けば教えてくれるのか。私が聞いている話では、そういうことであったということですので、それは、先ほど名前をあげた市会議員の皆さんには、皆聞いていますので、もしあれば聞いていただければと思います。

大学(中嶋) 私、今、浜口の大学に近いところに住んでおります。それで子供も大きくなって別々なところに住んで、私、一昨年単身赴任でこちらの方に来ています。個人的には初めて住む長崎ですが、非常に気に入っています。よい環境を感じて、これから大学の施設をやっていく中で、ここで働いている限りにおいては住み続けたいところだと感じております。

それから、私、過去に 10 カ国ぐらい 10 数カ所の BSL-4 の現場に行って見てまいりましたが、先ほどお話があった全くの人里離れたというところも実はございました。そこはイギリスのロンドンの南の方のポートンダウンというところで、広い緑の綺麗なところの真ん中にポツンとあって、隣にも防衛系の BSL-4 がポツンとあって、本当にそこは人里離れたところ。ただロンドンの市の北のところには、住居の中に囲まれた、おそらく私の見た限りにおいては、長崎のグラウンドを介して民家があるより近い環境の中にあったりとかして、だいたいどこの国も、人里離れたところではないというのが実際行って見てきたところでございます。

この 2 つを先ほどのお話のところで、お話をさせて頂こうかなと思いました。

住民 大学は自分の勤め先だから肯定している。特にここにいる皆さんには、先頭を走っているので当然でしょうが、住民は突然の話で災難としか受け取れない。

歴史的背景などを考えると、ここにもってくる意識が、住民をないがしろにしている。海外のBSL-4施設について、ドイツのベルリン、ハノーファーは大都市の街中、マーブルブルグはフィリップス大学だが、研究施設は長崎で言うあぐりの丘みたいなところ。ドイツとかイギリスはNATOの中東あたりを平気で爆撃する国ですから、日本と体質が違う。中国は武漢の山奥、韓国も内陸部、台湾は台北の校外の陸軍施設、街中にあるところもあるが、そうでないところもたくさんある。大学は都合の良いところだけ説明しているから説得力に欠ける。

大学(安田) まず、マールブルグですが、あれは確かに丘の上のようなところにございます。ただそれは医学部がそこに移転した。最初は下の方に大学のキャンパスがあって、医学部が移転したので、そのちょっと丘の上のところにあるという実情がございます。

それから、中国は今、2つ、ハルピンとウーハン、武漢にあります。ただこれもおっしゃった通りなのですが、元々、中国の武漢が最初にできて最近ハルピンの方も動き始めたのですけど、武漢の方は元々、ウイルス研究所というのがございました。そういう意味では長崎と非常に似ていて、長崎にも熱帯医学研究所が元々あって、そういった研究所があって、研究のインフラが整っているということで武漢に中国で最初のBSL-4施設ができたという経緯がございます。

それから韓国は、すみません地名を忘れてしましたが、これもソウルから新幹線と高速鉄道が通っていて、それで30~40分と伺っているのですが、いわゆる新興の工業団地のようなところに造ってございます。それから台湾は、これはあんまり情報が入ってこないですが、軍関係の施設だということなので、これに関しては、我々とは全く違うBSL-4施設ですので、あんまり参考にならないかなと考えています。我々の知る情報としてはそういうところです。

大学(中嶋) 台湾のことまでご存じだということで、よくご存じだなと思いました。実は私、台湾CDCの方たちと一緒に、この山の中にある台湾の施設、今、安田さんの方から言った軍事施設のようなところに行ってみたこともあります。あそこも離れたところの1つだと記憶しております。

住民 大学の説明資料は、世界では交通機関が発達、長崎も観光の都市だから、いかにも感染症の病気が入ってくると脅しながら、しかもしも施設を坂本に作っても、ウイルスは外に出ても紫外線等ですぐ死ぬと。では夜はどうなの？朝も昼も夜も24時間稼働するのでしょうか！換気のヘパフィルターは一枚一枚検査をして使うのか？つけ忘れ等のヒューマンエラーはないのか？

廃棄される空気は検査されますか？ 朝昼では風向きが違う、外に出たウイルスは長崎市内に振り撒かれる。100%安全とは絶対に言えない。 あなたたちの説明は、安全神話が先行している。 長崎大学は地域医療に貢献している。

私の家族もお世話になった。 しかし 2015 年小児科の院内感染は 2 か月くらい公表しなかった。 この間のボヤ騒ぎは消防署にも通報しない。

調先生はしっかり情報は公開する。 透明性の確保と情報公開の取り組みは続けていくと言っていますが、今、坂本キャンパスの BSL3 施設の点検項目の公開を求めたら、黒塗りののり弁状態、情報公開と言いながら同じものをコピーしたものばかり。

取り扱うウイルスは公表しないのでしょうか？ 情報公開を言いながら現に今でも公開していない。 以上のことと明確に答えて欲しい。

大学(調) 院内感染のことはちょっと記憶が定かではないので、あまり言いたくはないですが、院内火災のことに関しては、この前そういうことがありました、大変我々も驚きましたし、きちんと体制を整えていかないと考えて締めなおすとしているところです。 それからウイルスがどこにあるかということについては、公表するつもりであります。 ただし、どの部屋のどの冷蔵庫に何が入っているということについては、公表は一切しません。 このウイルスの研究、あのウイルスが搬入されるということについては、嫌疑無く公表する予定であります、具体的な項目や方策については、今後の検討事項で、これは地域連絡協議会の中で明らかにしながら。

今、海苔弁とおっしゃいましたが、情報公開の中で 1 枚そういう紙があったのは、確かにおっしゃる通りでございます。 ただ、これはですね、どの冷蔵庫に、どのウイルスがあるかということを出さざるを得ないような請求でしたので、それについては消さしていただいたということです。 どのウイルスがどこにあるのかということについては、一切出しません。 断固として、これは出さない。 ただしどのウイルスの研究をするとか、次にどういうウイルスが搬入されるとかいうことであれば、それについては、公表するということでございます。

大学(安田) 病原体の名前も出さないとおっしゃったのですが、我々研究していると、研究成果というのは論文のカタチであったり、いろんな学会発表など、あるいは市民講座という形でお話しさせていただきますので隠しようがないので、それは当然、表に出る話です。 先ほど、夜は紫外線がないじゃないかとおっしゃいるのですが、資料の 21 ページですが、別に紫外線にだけに頼っているわけではなく、そもそも、[ ]さんはさきほど出ることを前提にお話されていたのですが、先程から申し上げているように、この施設から病原体が出るということは、現実的にはあり得ない話です。 それは使っている量からしてもそうですし。

(ヤジ : [ ] : 安全神話だ、それは。)

排気口までの距離が何十メートルもある中で、本当に微量の空気中を漂う為には一定の大きさの水滴じゃないと長期間漂うことができない。

それが、言われているのが、大体3マイクロメーターから5マイクロメーターの水滴の大きさが一番大気中によく長期間漂うことができる大きさです。

それに関しては99.97%、それを二重で1億個通って9個通るか通らないかという確率ですが、そもそもそんな量のウイルスを実験室の中で使わない。

私が現実的にあり得ないというのをそういう前提でございます。

さらに夜だったらどうかということですが、出ないことが前提ですが、それを取っ払ってさらに話せと言われば、乾燥というのもございます。

そのような小さな水滴、3マイクロ、5マイクロメーターという長期間漂うような水滴とは、そんな大気中で、長期間、水滴のままでいることはできない。

すぐ、弾けたり、乾燥して、水滴自体がなくなってしまう。そうするとウイルスというのは乾燥に弱いので、すぐに死滅します。壊れてしまいます。

それから風で、気化熱と言いますが、体の表面の汗が風で吹くと乾燥するのと同じように、ウイルスも溶液の中でないと生きながらえることができないので、そういう事実からも、出ないですけど、出たとしても周りの動物など、先ほど感染の仕方のお話をしましたが、いろいろな複合的理由から、近隣の動物であったり、人に感染するような排気から漏れて感染するようなリスクは、私は100%ないと言えると思っています。

住民 この資料には感染の可能性があると書いてあるじゃないですか。大学ではウイルスを飼いならしてうつさないようにするのですか？

大学(安田) それは全然違う話で、これは感染がというのは人とか物が、あるいは動物かもしれないが、一番可能性が高いのは、感染した人が入国して感染が広まる可能性について言っているのであって、全然違う次元の話だと思います。

会場 予測できないことが起こることはあります。  
ヒューマンエラーも考えないで、こんな施設を作るべきでない。

大学(調) ヒューマンエラーも考えないと言われますが、我々は起こりうるヒューマンエラーについていくつも考えていて、基本的には一重二重どころではなく、三重四重五重の安全性ということで、人間は間違うという前提に立ったときに、それでも安全なシステム作りを、今考えているところでございます。

住民 今、ウイルスは単体の場合の話をしていますか。かたまりにはならないですね。そうしたら、結構長く距離があっても、そんなに死滅はしないでしょう。

大学(安田) ウィルスが単体で存在することはあり得ないです。ウィルスは液体の中ではないと生きながらえることができない。かたまりもあり得ます。

先ほど申し上げたのは、ウィルスは大気中を漂う場合は、水滴の中にいくつか入っている状態で漂うのですが、遠くまで飛ぶ水滴の大きさが、3マイクロとか5マイクロと言われており、そうじゃないと落下するか、その前に弾けるかどちらかです。

一番長く飛ぶ水滴の大きさが、3マイクロから5マイクロメーターです。

それについて先ほど、そんなに長く大気中に留まることはないですよとお話した。

住民 では、排気するというのは、どういう事ですか。排気は何に使うのですか。

排気弁というか、ウィルスもそこから逃げる可能性あるでしょう。

だから安全のためにこうやってしているでしょう。

大学(安田) 排気というのは、この施設は実験室の中を陰圧制御されていて、気圧を低く下げるによって、より実験室の中央、一番ウィルスを扱っているところが最も強い陰圧、低い圧力になります。なぜそのような構造にするかというと、空気の流れが外から内側に向かって流れる構造を作ることにより、扉が開いた時というか、密閉構造をきちんと取りますが、これも完全気密ではないわけです。かなりの密閉度は保障されていますが、完全気密ではないので、まかりまちがつて実験室の中にそういった病原体が水滴、エアロゾルという形で出た場合でも、内側に流れていることによって、扉とか隙間とかを介して外に出ないようにということで陰圧構造、陰圧制御が取られます。そのためには排気、要は施設の中、実験室に入る空気量、吸気といいますが、そこから出す排気の量、排気の量を多くすることによって、陰圧が制御できる。この施設の安全度を保つために、吸気、排気施設がある限り必要です。

大学(中嶋) こういった病原体を使った施設の安全管理ということについては、特に1970年代からいろいろな方法が確立されてまいりました。

特にWHOの方が当時いろいろなほかの分野で使われていたHEPA フィルターというものを使っています。

結核菌の場合は、それは一重でいい。ただそれ以上のものの場合には、安全を見越してもう1枚というシステムでマニュアルを作成し、各国がそれをすべて利用している。日本でも法律に基づいて、そういった施設にしなさいというところがありまして、そういった管理されたものでは、ご懸念のところについては、心配はないと言えると思います。

住民 そのヘパフィルターと言うものが完全に性能通りであれば、いいかもしれません、旧ソ連の研究施設（BSL3でしたか）では、フィルターの付け忘れか、取り付け時のミスで炭そ菌が漏れ、研究所の周囲4kmで何十人も死亡するという事故が起きている。そういうことはありうる話ですよね！

大学(調) 何十年か前ならありうる話。ひとつは、フィルターは付けたときに必ず性能検査をやることと、1枚2枚付けたとき、陰圧で引くときにフィルターの数によって、引いた力と入ってくる空気の量を検出すれば、フィルターが1枚足りないというのは今の最新鋭の機械ですぐわかるので、つけ忘れや斜めになつてちゃんとはまっていないなどについては少なくともそのような機能で検知できるでしょうし、そういうものに頼らなくても、つけるところについては、かなりの安全の検査をきちんとやることになっています。

大学(安田) 先ほどロシア、旧ソ連の話が出ましたが、あれは炭そ菌で、陸軍の生物兵器工場から炭そ菌が排気からの漏出事故です。

これに関して、炭そ菌はそもそも BSL-4 の病原体ではなく、BSL-3 ですが、ここは生物兵器工場なので、大量に生物兵器として炭そ菌を培養していたところなので、BSL-4 の施設とは全く違う話です。

会場 長崎大学も炭そ菌を使って実験をするといったではないか？

前の質問会で、炭そ菌も併用した実験はすると言った。

大学(安田) BSL-4 施設で炭そ菌の実験はしません。そもそもやる必要がないですから。

言ってないですよ。僕は専門家なので、そんな BSL のレベルの間違いはしませんのです。

大学(調) 炭そ菌とウイルスを合わせるという技術は、今人類の中ではありませんので、そんな議論はしてないと思いますよ。

大学(中嶋) ソ連の施設のほうで漏れてしまったという話の補足ですが、実はソ連の時代なのですべてのことが明らかになっているわけではないのですが、査察チームみたいなものが、国際的なものが2回入っておりますが、やはりどうも、先ほど軍需工場だったのだろうという所で何を作っていたかというのが想像されています。そこは、実はアメリカでも2001年炭そ菌テロ事件というのがあったのですが、あれはただの炭そ菌ではなく、細かいところですが、炭そ菌を相当細かい微粒子にして、封筒を開けるとふわっと出てくる。要するに人殺しをするための道具として造っていた。たぶんそれが漏れた。そうなるとものすごくウイルス等と違い、風に流れやすい状況の、非常に精巧なものだったのだろうと。それで事故が起きたということは今推測されています。そこはちょっと、ただの炭そ菌ではないということで補足をさせていただきました。

住民 橋口町の××です。この前の起工式で学長は、走りながら、造りながら理解を頂く、武藏村山では合意は得られなかつたが、長崎では合意が無くとも、理解を頂くと話したが、合意と理解はどう違うのか？

原発は絶対安全と言っていた。事故はあり得ないと今、調先生や安田先生が

BSL-4 施設では事故はあり得ないと言ったのと同じ。

3.11 の事故以降、日本の原発はあり得ないとは言えなくなった。

想定外の事故は絶対にある。去年も北海道の大停電、大阪の空港での大水害、そういう想定外の事故は絶対にある。

橋湾には地震の断層もある。事故が絶対ないということは言えない。

山里は原爆、キリストン弾圧があって、更にその上、エボラでやられる。

第三回目の被害が出るのが嫌で、山里に造らないでと言っている。

理解は深まっていない。考えられない事故はあり得ないというのはうそです。

住宅地に造らんください。

大学(調) 想定外とは何かということだと思いますが、ありとあらゆる事を想定し、

例えば、地震に関しても橋湾の活断層について最大でどれくらいか、あるいは、南海トラフ地震が起きたらどれくらいかについて、専門家の間では震度6強ということになっているらしいが、我々としては、最大震度7に達する地震に耐えるように造るということをやっています。

水害、風、雷、停電。例えば停電、何が原因であろうと総電源喪失ということが福島の事故を拡大させたのですが、BSL-4 に関しては、72時間は自前で動くだけの準備はしているところですが、仮にその後、どうなるかというと、ウイルスは死にます。

いわゆる冷凍機能がなくなると、ウイルスは壊れて、ただのたんぱく質になるとということですので、それは放射線とは全く違うものですので、一色淡に議論をすると間違うのではないかと思います。どういう事が想定されるかという事については、我々も知恵を絞っておりますし、それに関して、二重三重四重の安全をかけていこうとしている。

何が想定外かということについては、一緒に議論をしてきたつもりですし、今後もその議論については真摯にやっていきたいと思っています。

住民 合意は。理解と合意は。

大学(調) 大変難しい問題だと思います。我々としては市議会の賛同を得、県議会の賛同を得、市長さんの同意を得、今回着工に関しても近隣13自治会の会長さんたちが学長のところに実はお見えになって、安全性の確認をしながら造ってくれという陳情みたいなことも受けましたし、長崎市内の16団体これは、医療系団体から経済系団体に関しても、学長のところに造れという陳情をいただきました。

私どものところのフリーダイヤル、メールいろいろな意見を受けておりますが、最近の傾向としましては、激励の電話が大変増えていると申し上げたいと思い

ますので、そういう雰囲気も含めて、総合的に学長が判断したということであろうと思います。

住民 市議会が賛同したと言ったが、議員は市民が選んだ議員だが、この問題に関して彼らは市民の声を聴いたわけではない。勘違いされたら困る。

大学(調) 議員さんについて、私からとやかく申し上げることはないが、彼らは彼らの立場で活動され、その中でヨーロッパに視察に行かれたりしていると申し上げたいと思います。

住民 調さんが市議会、市長から合意を得た、県や国から合意もあったと言われるが、それには住民の理解と信頼を得た上での、という条件が付いていた。  
それをいつ得るのですか？ と私も地域連絡協議会でずっと言っていた。  
それをしないとその施設は造ってはいけない。先生たちが信じている安全神話が問題であって、安全性についても、今のウイルスは自ら動いたり飛んだりしないとか、数個では体内に入っても人は感染しないと言っています。太陽熱や水道、紫外線でもすぐに壊れる。空気感染しません。

それは今のウイルスであって 10~30 年後はどうか？ この施設はずっと稼働してゆきます。ウイルスは変化しやすい。私も薬剤師をしているが、インフルエンザの特効薬が出来ても、すぐにその耐性菌が現れる。すぐに効かなくなる。ウイルスは生き残るためにいろいろ努力をして、変わってゆく。しかも先生たちはそれの、遺伝子組み換えをやろうとしているのに、坂本に施設を造るが、住民の理解と合意を下さいと言えるのですか？ そのところが問題だから、長崎大学がする大きな仕事は、まずそこにあるのです。強引に造ったらダメなんですよ。造らないでください。お願いします。

司会 それでは、今回集まっている意見をここで紹介したいと思います。

会長 予定の時間は過ぎましたが、この質問会を開催することは自治会で 1 月に決めまして、参加をお願いし、参加できない方は意見書、質問書を出してくださいとお願いしておりましたが、私の家のポストへ、又は郵送されてきたものが 10 件程ありますので、時間の許す限り紹介させて頂きたいと思います。

質問 1 最初の方、この方は匿名ですが、内容を見ると、大学関係者約です。長崎大学坂本キャンパスに建設予定の「BSL-4 実験施設」は非常に心配です。今まで長い間、長崎大学は長崎の学問と倫理の中心として市民から親しまれてきました。原爆被災時は自分の命と引き換えに被爆者の治療に当たったり、世界の核廃絶や平和運動の働きで長崎市の名誉市民に選ばれた元学長もおられ、大学の医者や研究者は市民の尊敬の的でもありました。

しかし、最近の大学はパワハラや成果第一主義で民主的な組織運営が出来ず、金なる（予算）と名声の獲得に必死になり、特に若い研究者や医者は人並みでは上司の要求に応えられない、マニュアル通りやっていたら間に合わない等々時間的にも体力的にも精神的にも追い詰められた状態の人もたくさんおられます。このような環境の中で、BSL-4のような施設を運営することは非常に危険であり、大学関係者も心を痛めております。

**大学(調)** 全国的に、今、大学は尻を叩かれておりまして、そういう意味で一部研究環境が悪化していることは言えるかもしれません。それだからといって全部そういうBSL-4におっかぶせた議論というのは、あまりにも乱暴な議論じゃないかなと思いますし、忙しいのでマニュアルなんかに従っていられるかみたいなことが、今でもあるのかなという気もしますが、少なくとも4の施設の運営に関しては、かなり厳格な運営を予定しております。

例えば、学会前だから、論文を出す締め切り前だからといって何日も徹夜をするようなこと昔はありました、少なくともこの分野に関しましては1日の作業時間4時間以内みたいなことで考えておりまして、とにかく研究者に負荷をかけないということは、非常に大事に、今考えているところですので、ということは少なくともこの施設についてはないのかなと思います。

大学全体がどうかといわれると、大学全体の幹部のひとりとしては、そういうことがないわけじゃないと、これは長崎大学に限ったわけではなく、ただそういうことを乗り越えながら、一つ一つ解決しながらやはり進んでいくというところで、今やっている。

**質問2** 原子力発電所は国も電力会社も安心・安全と言っていましたが、福島の事故で安全神話は崩れました。BSL-4施設も人間が作った以上、想定外の事故は必ず起きると思います。場合によっては、目に見えず、計測も出来ず、人から人へ感染する病原体は放射能より怖いものです。  
原発に対しては「原子力基本法」のように施設の安全確保を前提とした規制法がありますが、BSL-4施設に関しては規制する法律はありません。

又、原発は原子力規制委員会のように独立性の高い組織によって常に施設の規制監視が行われていますが、BSL-4施設に関してはいません。大学の手前みそのマニュアル、監視体制だけでは心配です。規制する法律や監督体制が

出来てからBSL-4施設の建設を始めるのが本当ではないでしょうか？

**大学(中嶋)** 規制する法律は御座います。感染症法と言う法律です。今日お配りした資料をご覧いただければ、④の資料になります。我が国におけるBSL-4に

関する規制は感染症法と言う法律で規制されております。そもそもこの法律は平成18年度に公布された、この病原体のルールについては、公布されたものです。この感染症法という法律は、昔は伝染病予防法という法律でございましたが、それが感染症法という法律に変わって、それから第2回目の改正で病原体の規制が盛り込まれました。

テロ対策、国内における病原体管理の確立、所持する機関等への規制強化という観点から、この法律が施工されまして、様々な規制が所持する施設に関わっています。これは厳しい規正法でございます。規制概要というのがここにいろいろと書いてありますが、施設の基準までございまして、そういうものを遵守しているか、問題ないかということを監督官庁といたしまして、厚生労働省と都道府県公安委員会、すなわちここは警察が入って厳しく監督をされることになります。

罰則としても、守らない場合にいろいろと厳しい罰則、懲役刑まで含むものも入っております。このような法律に基づくところで、監督していくということでございます。以上でございます。

**質問3 BSL-4施設から出される大量の排気ガスの放出や排水、実験動物等の汚水処理水の下水道への排出、医療廃棄物、動物の死骸、各種消耗品等の廃棄処分は適正に行われるのか、病原体等の汚染に対する安全性の検査や監視は誰が行い、正確に記録され、住民への報告、情報開示は適正に行われるのか？**

大学(中嶋) 今日お配りした資料の⑩のところがよろしいと思います。病原体を実験室の外に出さない機能、①のもの、これがおそらく廃棄物のところだと思います。高圧蒸気滅菌を施して必ず出していく。排水は、熱滅菌と薬液消毒、薬液消毒については塩素系のもの、排気はHEPAフィルターで処理、実験室から外に出るのは人間も。中で働いている人間も外に出ます。薬液で除染をする事になります。そのためにもこういった防護服といわれるものを着て、作業をする事になります。

こういった機会等については、必ず点検記録、日常の点検、毎朝の始業時点検から、1日のところで、どういったものをいつ滅菌したのか、だれが滅菌したのかというところまで、すべて、これはきまりごととして、記録を残さなくてはいけなくなります。そういったすべての記録を監督、我々はまずは内部でやった上で、そして、大学の中の別の部門がそれを監査する形、そして最後は

厚生労働省、警察の方が入ってすべての記録をチェックするという流れになろうかと思います。

私ども大学としては、大学でやっている点検等については必ずお話ができるような場面を作りたいと考えております。以上でございます。

質問4 エボラ出血熱は西アフリカの風土病ともいわれており、感染力が強く致死率の高い感染症です。一旦流行が収束しても暫くするとまた患者が発生します。一説ではコウモリ等の野生動物が宿主となってウイルスを保菌し、人に感染するのではないかと言われております。

さて、坂本キャンパス周囲にも、いのししをはじめ、イタチやテン、ネズミ等の動物、蚊やハエ、バッタ等の昆虫、ダニや虱、ゴキブリ等の害虫、その他いろいろな動植物が生息しております。夕方にはたくさんのコウモリがキャンパス内を飛び回っております。これらの全ての動植物に対して、BSL-4 施設で取り扱う病原体の影響は調査されているのでしょうか？地元の動物や昆虫等が感染して、それが長崎の風土病になってしまふのではないか？

第三者による環境アセスの実施と情報公開を希望します。

大学(安田) 先ほどから、この施設から病原体が出て周りの動物であったり、人に感染することはありえないと申し上げましたので、それが答えかと思います。

第三者機関という意味では、先ほど中嶋教授のほうから申し上げましたとおり、チェックというのをおそらく毎年、年一回以上、厚労省、警察のほうの検査を受けますので、そういったところでの安全度については、きちんとマニュアルの遵守等に関してはチェックされるということです。文科省に監理委員会というのがございまして、現在も我々長崎大学の計画を逐一チェックされております。これが今後どうなるかというのは、まだ明確には文科省の方からは、伝えられていませんが、おそらく、そういったところでチェックされるものと我々も考えているところです。

4の質問者 先程安田先生が、3~5μmの水滴はすぐに消えるとおっしゃいましたが、霧が発生した場合等はなかなか消えません。霧の水滴は5μm位と思うますが、その場合ウイルスも長く空気中を漂うのではないでしょうか？

5μmの霧の中にウイルスは何個入ります？長さ的には100個以上、体積的には百万個以上入ります。また先生は万が一にもウイルスが外に出ても、周りの動物が吸い込む確率は殆どないと言われたが、コウモリは民家の軒先や屋根に巣を作ります。もしキャンパス内のコウモリが施設の排気口のそばに巣を作っていたら、確実に吸い込み、感染するのではないか？

感染すれば長崎中のコウモリを駆除することは不可能ですから、西アフリカと同じことが起きるのではないか？

大学(安田) 大気中の水分が霧状になるものと理解していますが、この施設から出て、例えば、ごくごく一部出たとしても、出ないのですが。こういう言い方をするとまた語弊があるかと思いますが、希釈されますよね。それを何千、何万、もっとすごい量の呼吸をする動物がいたとしても、そのごくごくわずか出た、例えば1個か2個出たとします、出たもの、それを吸い込むことはあり得ないと

思います。でもそれは1個の5マイクロとか3マイクロとかの水滴に入っているやつですよね。ではその水滴がどれぐらい出る可能性があるか、私はないと思っていますが、それを取っ払って、いくつか出たとします。いくつか出たとしても、それを数個出たやつを全部吸い込まないと、感染は成立しない。

大学(調) アフリカにいるコウモリと日本のコウモリは全く別物ですので、日本のコウモリに感染するかというとそんなことやった人は誰もいないんですが、たぶん感染しないと思います。

会場 エボラはアフリカ人でも日本人でも感染する。アフリカのコウモリに感染して、日本のコウモリには感染しないとはおかしい。

大学(調) アフリカにいるコウモリと日本のコウモリは全く別物ですので、日本のコウモリに感染するかというとそんなことやった人は誰もいないんですが、たぶん感染しないと思います。人間は一緒ですが、コウモリは全然違うと思いますよ。

質問5 長崎大学感染症共同研究拠点とも関係の深い感染症研究の世界的権威であるステファン・ギュンター博士が施設長を務めている「ベルンハント・ノホト熱帯医学研究所 BSL-4 施設」は感染者の治療を行う大学病院と7~8 Km離れており、研究施設では感染症の疑いのある患者の検体のみを検査・研究することから「研究施設と大学病院は離れていても問題ない」との発言がギュンター博士からあったと記載された文章を拝見しました。

その発言を踏まえ、長崎大学が以前から言われている長崎大学病院と既に建設工事が着工されて BSL-4 施設が隣接していることが望ましいとの見解は関係者の方々の“利便性のみが優先”され不安を抱く地域住民への配慮を感じることが出来ませんが、この点についてどう考えておられますか？

大学(安田) その研究所はハンブルグの BSL-4 施設の事ですが、先程、話に出ているハンブルグ港、観光名所のハンブルグ港のすぐ目と鼻の先にこの研究所がございまして、仰る通りここで何か BSL-4 の感染事故が起きたとか、BSL-4 の病原体に感染症が疑われた場合は、確かに私、何回かここへ訪問していますが、ギュンター博士は私にはエッペンドルフと言っていたと思いますが、エッペンドルフの近郊の病院に患者は収容される。ただ、そこまで行くのに30分はかかるないよとそういう距離ですのでという事は仰っておりました。

ただ、彼らはそういう状況化ですので、それでやっているというお話をあって、それはもちろん近ければ近いほど住民の皆様に、例えばそういう人たちが我々

専門家からすると、針刺したばかりで他に感染することということはあり得ないです。まず、その人の体の中で増えるためには、数日から一週間という時間がかかりますので、すぐ刺したばかりで他に病原体が伝播されるという可能性は無いですが、そうは言っても近隣の皆様は多分そういった人が近くに居ることは不安だと思いますよね。そういう意味から言うと、やはり近くにあった方がいいですし、もちろん刺しした人とか、あるいはその感染した患者さん、疑いのある患者さんの不安を除去するという意味でもすぐ近くにあって、そこで隔離された方がより安心を保証できると思いますので、私は近ければ近いほど安心に繋がるというように考えています。

質問6 そもそもこの問題は、片峰前学長が2010年の学長選挙の公約として設置計画（地元自治を公言されたのが始まりです。その後、今日までの9年余り、事業主である会役員）学長たちは自ら地元地域へ出向き、近隣住民と真摯に話し合ったことは、たぶんたったの1回だけです。私たちが今日までWHOや日本建築学会の提言にある「住宅密集地付近は避けるべきだ。設置したいなら、計画の段階で近隣住民・市民との合意や理解や信頼関係の構築が必要である」と何度も訴え続けているにもかかわらず、誠意ある対応をしてきませんでした。これは「不安な声の大きさにおびえているからか、それとも無視しているのか、舐めている」というしかありません。改めて心の底から怒りがこみ上げてきます。そんな中先月ついに、「住民の声を全く無視したまま着工」してしまいました。こんな酷いやり方は絶対に許されないし、絶対あり得ません。

ところで、施設本体は建築基準法上「大学」として申請され、許認可を受けています。消防局には正式な図面は提出されていないですね。また、日本にはBSL-4施設建設に関する個別の法律はありません。いわゆる建物の用途は「大学」としたまま、隨時設計変更しながら完成させて、世界で最も危険度が高い致死性ウイルスを生きたまま持ち込み、動物に感染させ実験・研究しようとしているのです。もし私が言っている通りならば、こんな建物は建築基準法や消防法上の違反建築物となる可能性があります。またこれまで大学・調さん・安田さんたちが言ってきたことが、私たちの心からの訴えと通じ合わなかったことも踏まえると、たとえ「大学建設」で造っても、施設としては使用中止となるんじゃないですか？

しかも、このまま設置されたら建物外で事故が発生した時に、あなた方は個別の法律がないことを根拠としながら、「単なる大学内の事故扱い」とし、国・市・県と共に謀しながら、関係者全員が責任逃れをするばかりで、結局は国民を傷付け、裏切るだけの事業になる可能性が大きいと、先の福島原発事故が証明したばかりではないですか。

こんな無茶苦茶な施設建設は即刻中止するしかないと強く訴えます。

そこで医学部関係者なら、皆さんご承知でしょうが、長崎大学医学部の校是を聞いて頂き、調さんと安田さんへお尋ねします。

「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。それを好みなら、他の職業を選ぶがよい」

調さん、あなたは医者ですよね。「私が、施設が出来て研究開始以降心配で夜も寝られなくなり、精神的につらくて仕事にも影響が出て、普通の生活が出来なくなった」と診察をお願いしたら、どうしてくれます。  
精神科医に丸投げして済ませますか？

安田さん、あなたは研究者ですよね。「なぜ長崎にBSL-4施設建設を推進する前に人として衆人への気配り、目配りを重んじ、積極的に関係地域に出向き、話し合い、合意と理解と信頼関係を構築させないのですか？  
また、現状のように何の責任も構築も果たしていない今の現状では、あなたの立場により、明日にでも工事を中止させるべきだと思いますが、如何ですか？  
以上真摯で明快な回答をお願いします。

大学(調) ご意見として伺っておきます。ただ、日本にエボラウイルスのようなBSL-4病原菌が侵入した場合、我々長崎大学のスタッフ、研究者、医師、看護師が命を懸けて最前線に立つ、これだけはお伝えします。

質問7 BSL-4が年内に着工されようとしているため、意見を2回熱帯医学研究所に(戸町住民)送りました。私は以前マラリア学会のボランティア通訳や世界連帯都市市長会議のボランティア通訳を勤めました。

知識のない上野地区の住民の反対を押し切っての研究施設の強硬設置は驚きに堪えません。感染症やがんの免疫治療で名声が高いロックフェラー大学で研究を行うのが最長の策だと思います。県議会を傍聴したところ、ベトナムやイスラム圏から研修生や観光客を長崎県に誘致して貿易や旅行で地元経済を活性化しようとしていることがわかりました。

追悼平和祈念館長もベトナムに出張するなど、本来市民の生活と安全を守るべき田上長崎市長もBSL-4誘致の賛成している状態でおかしいと感じています。核廃絶は、長崎大学教員他長崎大学の医師たちが戦後、長崎市の核廃絶のリーダーとなって市民の命を救ってきた経過を考えるとき、研究者として強硬路線に立たず、常に住民の側に立つべきだと思いますがいかがでしょうか？

住民の意向を無視する熱帯医学研究所の研究者や河野学長とご相談いただき、方向転換をして東京大学総合研究博物館小石原分館のような博物館に転用して、

市民公開講座を実施し、熱帯医学に親しんでもらうと良いと思います。  
地域住民の理解や連帯なしで設置を強行する研究所は教育上好ましくありません。

会場 最後に一言、もし事故があって市民に感染し、その人が亡くなったり、後遺症が出た場合については、どういう考え方をしておりますか？

大学(調) 具体的に申し上げるところまで詰まっておりませんが、まず保険の話とかそういうのはやっていますよ。もしそういう事が起こったら、この施設は多分閉鎖しますし、長崎大学の存在も危うくなると思います。私の見解、個人的な見解ですが。そういう事になれば大変申し訳ないと思いますし、国の力も借りながらできるだけのことをしたいと思います。

司会 それでは、皆様こんな時間までお付き合いいただき有り難うございました。  
最後になりますが、■会長より、最後の挨拶を頂きたいと思います

■会長 本日は長時間にわたる真剣な話し合い、誠にお疲れさまでした。  
大学の先生方も遅くまでありがとうございました。  
まだまだ話は尽きませんが予定の時間を大幅に超過しましたので、ここで  
お開きにしたいと思います。大学はいろんな場所で説明会を何度も開いて、

住民の理解をお願いしていると言っていますが、一方的な説明だけではなく、  
本日みたいに住民の気持ちをぶつけて、大学側の答を聞くような質問会も、大学  
にとっても住民にとっても、大変有意義ではないかと思います。

しかし、この問題に関しては残された課題は山のようにあります。  
どうか住民が納得するまで話を続け、その結果でどうするか、建設するか、中止  
するかいずれにしろ住民と大学の血の通った話の中で、理解と合意を深めて頂き  
たいと思います。  
簡単ですが、以上で閉会の挨拶といたします。お疲れさまでした。

以 上